

ところ会員 各位

ところ会 3 月行事案内

平成 26 年度、第 3 回テーマ:所沢を楽しむ

久しぶりに所沢を歩きましょう。19 期所沢の歴史を選択した方にとっては半分位は行っている所になると
思いますが、再訪すれば新しい発見があるかもしれません。
旗本の墓がある永源寺、長久寺を中心に西所沢駅から所沢駅まで歩きます。
参加・不参加の連絡は平成 26 年 3 月 10 日(月)迄に連絡願います。

記

日 時:平成 26 年 3 月 14 日(金)9 時 00 分集合、小雨決行(中止の場合は当日朝までに連絡)

集合場所:西武池袋線・西所沢駅(改札外)

コース:西所沢駅～所沢駅(約 5km)

西所沢駅(9:00) ➡ 永源寺(9:15～9:40) ➡ じゅうにん坂(9:45～9:50) ➡ 郷土美術館前(9:55～10:00)
➡ 東の上遺跡(10:05～10:15) ➡ 長久寺(10:25～11:00) ➡ 持明院(11:15～11:30) ➡ 庚松堂・百番供養塔
(11:35～11:55) ➡ 富士塚(12:00～12:10) ➡ 日月神社(12:15～12:20) ➡ 所沢駅(12:30 頃) 昼食:徳樹庵

訪問先

1. 小手指火車站創設之碑(西所沢駅)
2. 永源寺 市指定文化財:大石信重の墓塔、旗本高井氏の墓
3. じゅうにん坂
4. 郷土美術館 国の有形文化財(日曜開館のため入れません)
5. 東の上遺跡 南陵中学の東山道武蔵道跡、つばめ児童館(東の上遺跡)
5. 長久寺 市指定文化財:旗本中根氏の墓、
6. 持明院 民話:曼荼羅淵の河童
7. 庚松堂、百番供養塔
8. 富士塚、庚申塔
9. 日月神社 民話:蜻蛉のやどり木
10. 馬頭観音、庚申塔(北秋津交差点)

1. 小手指火車站創設之碑（小手指列車駅創設之碑）

武蔵野鉄道は大正4年(1915)池袋－飯能間の西武池袋線を開業した。正平7年(1352)に新田と足利が戦った小手指ヶ原古戦場にちなんで、ここは小手指駅と呼ばれたが開業から、3年後西所沢に改称された。この、記念碑は大正8年に建てられた。

■地蔵山停車場問題 武蔵野鉄道敷設が本格化すると、路線、停車場の場所が問題となった。川越鉄道所沢駅を利用し、南原経由で地蔵山に停車場を設置するという案は、町の衰退を恐れる下町（現在の御幸町）住民からの反対意見を受けた。地蔵山停車場は現在の西所沢駅である。結局、所沢停車場に必ず連結することを条件に全町の合意に達し、小手指、山口村を加えて敷地購入のための寄付金集めがはじまった。敷地の買い上げや集金で一時停滞したが、金山町 556 円、上町（現在の元町）の 224 円を筆頭に、裏町（現在の有楽町）1.5 円まで合計 1000 円が各町の利便度に応じて出金され、大正四年に開通に漕ぎつけた。地蔵山停車場は「小手指駅」として開業し、三ヶ島村にも「元狭山駅」（現在の狭山ヶ丘駅）が開設されることになった。……ところざわ物語より

正三位伯爵宗重聖家額
西所澤舊紀所謂小手指原而正平七年以新田足利打仗之地其名炳乎史上茲地西進青梅及五日市北接飯能入間川越等平野遠關阡陌旁午顧以交通便否可卜其薩替也大正二年武蔵野鐵路公司起工於東京池袋將達埼玉縣飯能町而其軌道貫通小手指邨者里餘惟以此地接隣所澤驛不頓火車站村人深慨後來之盛衰釀貲損地相商以設置車站公司亦屬望乎後日之昌賑終至置站村人等欲傳其事于浚毘屬余為文樹碑記之
大正八年歲次己未四月
滑川達讓弁書 小泉藤芳鐫



* 1 参考資料: 所沢市域駅名変遷 (新編ところざわ史話より)

2. 江戸道

西所沢駅踏切を渡ってすぐ所沢高校に向かう道は旧江戸道です。西は第六天、誓詞ヶ橋を通過して青梅に、東は久米道に至ります。

3. 永源寺（大石氏ゆかりの寺）

永源寺は大石信重が 1442 年に開いた寺で、所沢市指定文化財の大石信重の墓塔があります。近年では雪割草の名所としても知られているそうです。

徳川家康が江戸城入城の翌年、寺領30石の寄進を受け以後 14 代家茂まで朱印 30 石を拝領したと言われています。本堂に古くから伝わる駕籠が飾られています。これは住職が登城(江戸城へ行くこと)する時に使用したと言われています。

・山門の脇には 結界石があり(明治 29 年)、「不許葷酒入山門」の文字があります。同じく大石氏ゆかりの寺の下安松の長源寺の山門脇にも同じ様な物がありました。どちらも曹洞宗の寺で、源の字がついていますね。



永源寺を創建したと伝えられる**大石信重**は、木曾義仲の末裔を名乗り、室町幕府の関東管領を勤める山内上杉氏に仕えました。その後合戦の手柄によって上杉氏に重用され、武蔵国のうち多摩・入間両郡の内、十三郷の領主となり、さらには**武蔵・伊豆両国の守護代**を歴任しました。

本堂の石段を上ったところに覆屋に入った石塔がありますが、これが**大石信重の墓塔**です。五輪塔や宝篋印塔などの部分で構成されていますが銘文のある基礎石は宝篋印塔の形式であるので、本来は宝篋印塔であったと考えられます。銘文には次のように刻まれています。

直山守公菴主
正長三祀□□
廿八日 巳尅

「直山守公」とは、大石信重の法名です。この石塔はいささか変形ながら中世の所沢地方を支配した大石氏の資料として貴重なものです。

<所沢市教育委員会>

下安松の長源寺中興の祖

大石信重－憲重－房重－顕重－定重－定久－氏照



永源寺の紋ミツウロコは北条氏の紋です。

門前の階段敷石寄付碑（明治 29）には
25 世北條豪傑となっており、氏照の縁で住職は北条氏？

・旗本高井氏の墓：高井氏は戦国時代には今川氏に使えていたが、桶狭間で敗れた後徳川氏に仕え天正 19 年(1591)久米に 200 石を与えられた。

・石階供養塔（明治 25 年）：墓地階段脇
墓地の階段脇にあります、石口供養塔と見えたので、てっきり石橋供養塔がどこかから持って来られたのだと思いましたが、石階供養塔でした。石段にも供養塔があるんですね。



・庚申様（青面金剛）

安永 2 年(1773) 武芻入間郡久米村講中三十老人
ショケラは持っていません。

・六地藏：寛文 3 年(1663)

・齋藤與惣次の墓

明治天皇がお泊りになった「明治天皇行在所」の当時の当主・齋藤與惣次氏は町の発展に寄与した「町の恩人」として知られています。昭和初期に不況対策事業で金山町の大通りが拡幅された時に、金山神社は裏に墓は永源寺に移されました。



齋藤 與惣次 1850～1922 嘉永 3～昭和 6 82 歳 民権運動家、政治家

齋藤家の始まり：齋藤四郎右衛門尉利長は河越夜戦（1546）で上杉方として北条氏と戦いに敗れて所沢に至り浪居していたが、10 年後この地に居を定めた。その子齋藤主計祐信宏は談山神社から金山権現を勧請した。明治時代の神仏分離令により金山神社と改められた。（齋藤氏は藤原氏の一族であり、談

山神社は藤原氏の祖藤原釜足が祭神)

斎藤与惣次は明治 10 年 23 才の時府中から斎藤家に養子に入った。

(父武左衛門も田中王道*¹の田中家からの養子。)

* 1 田中王堂：慶応 3 年中富生まれ、哲学者早稲田大学教授

- ・町議会議員・県の学務委員（公立小学校の学事・教育に関する事務を担当）を務めた
- ・幼稚園や町立実科女学校を作った。
- ・住民民権運動の所沢の中心的なリーダー

活動の場は求友館（現在元町東公民館：勝海舟の揮毫した求友館の額がある）

求友館は政治結社「所沢倶楽部」の事務所が置かれ、政治運動の本部となった。

- ・向山小平次と共に川越鉄道の誘致を行った。

明治天皇行在所：斎藤家の見世蔵は現在のまちづくり商店、その裏の母屋は明治天皇行在所である。明治天皇は明治 16 年に飯能付近で実施された近衛兵演習の展覧のために行幸され、その行き帰りに所沢で宿泊をされた。その時、行在所として定められたのが斎藤家で、現存する埼玉県唯一の行在所です。また、天皇が演習をご覧になった羅漢山はその後、天覧山といわれています。

・鯉幟：左の写真は斎藤家にあるもので、與惣次の長男武の初節句を祝うために父武左衛門が幕末の三舟と言われた勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟に揮毫を求めた物。海舟が鍾馗、鉄舟が幟、泥舟が鯉 と書いている。



4. じゅうにん坂

この坂はなぜ十人坂といわれるのでしょうか。

十人坂のいわれは、大正時代に書かれた本がはじめて「十人の武士が切腹した場所である」という説明を載せるまで、江戸時代の本にも何も記録がなく、はっきりしません。坂に下の方には 10 体の石仏がありま

すので、これが十人の武士の墓でしょうか。
台座には施主山田と彫っており、年号は元禄、宝永と違っています一度に切腹したのではないようです。また、よく見ると右端の墓は小さいし、頬に手を添えて、物思いにふけるのは如意輪観音で、女性の墓によく見られます。

この墓は、実はこの付近の墓地の無縁の墓石が、道路の拡幅により今のように並べられたのだということです。



十人坂の名は、この坂を荷車で登るのに 10 人の力が必要だったからという説もあるようです。

5. 郷土美術館

所沢郷土美術館は、幕末から明治時代にかけての医家として、建てられた主屋、長屋門、土蔵が国の登録有形文化財として 2005 年に登録され、現存する医家住宅として貴重な景観となっている。

平塚家は初代菊川儀角(江戸小石川で開業していたが平塚家の養子になった)が川越藩 松平大和守の侍医をした家柄で、この建物は三代平塚崇順が建てたものです。嘉永 6 年 (1835 年) に 6 年かけて建てたもの、大工は永源寺を建てた人。

平塚家は 4 代続いた医者で木造平屋の主屋には身分の高い来客を迎える為の玄関(式台)や診察・調剤のための薬部屋があり駕籠もある。大正昭和の初めまでは菊川さんという名で通っており、前の坂は菊川坂と呼ばれていた。

現当主は崇順から数えて5代目の平塚宗臣さん。先代の平塚義角は所沢郷土美術館の初代館長で所沢市の教育委員長（山田力蔵、下田佐重に次ぐ3代目委員長）も務め、著作に「ふるさと久米—今と昔」（1985年）がある。現当主宗臣氏も歴史に対する造詣もが深く「近代を駆け抜けた所沢人」などの講演もされている。

6. 東の上遺跡

面積は約30万平方メートルを擁します。これまでの発掘調査によって、縄文時代から中世・近世にかけて各時代の遺構が検出されていますが、とりわけ奈良・平安時代には大規模な集落が営まれており、入間地区でも屈指と言われています。

特に南陵中学校の校庭から検出された幅約12メートルの道路跡は、古代国家の幹線道路「東山道武蔵路」として埼玉県内で初めて確認されました。また、墨書土器や漆紙文書、炭化した大量の米、帯金具や馬具などを出土していることから、役所の働きをする集落であったと推測されます。

①南陵中学：東山道武蔵道跡の説明板

②つばめ児童館：遺跡の第77次調査で竪穴住居跡、掘立て柱建物跡等が発掘された。



第8図 東の上遺跡 調査区遺構全体図

東の上遺跡調査報告書より

8. 長久寺

鎌倉街道が傍を通る花向山常光院長久寺は、1333年頃に玖阿上人（玖阿弥陀仏）によって開基された時宗の寺で本尊の金銅造阿弥陀三尊立像は所沢市指定文化財です。（玖阿上人は現在徳蔵寺にある「元弘の板碑」を建てた人である。）

・廻国供養塔：市文化財

建立者の平塚宗順は久米村に生まれ、後に江戸へ出て小児婦人科医師を開業します。後年、日本廻国行者となって、国中の神社仏閣を参詣し、その記念として、安永3年（1774）この供養塔を建立しました。平塚宗順夫妻の和歌などが刻まれた塔身の上に、連台にのった薬師如来坐像が置かれています。（現郷土美術館の医家平塚家の2代平塚宗順？）

廻国供養塔とは大乘妙典（法華経）を六十六部作り、国内の六十六の霊場に納めたことを記念して建てる。

・^{おしやぶき}寿和婦貴様

六体の首なし地蔵です。首が無く咳に苦しむことがないことから、風邪や咳に苦しむ人にご利益があると云われている。寿和婦貴はすわぶき（咳）からきている名で峰の坂共同墓地の入り口にもある。

・六地藏 寛政6年（1794）

・宝篋印塔：名称は、宝篋印陀羅尼経を納めたことによる。死者の菩提を弔い功德を受ける。

・中根伝七郎正重の墓

三河で徳川信康に仕え、その後家康に仕えた旗本で伏見城番となったが亡くなり、長久寺に葬られた。

参考資料：旗本と一夜泊の地

江戸城に入った家康は、関東周辺の支配を固めるため、三河から連れてきた家臣たちを江戸近辺の要所に配置した。主要な街道や河川沿いには上級家臣である大名が、また、江戸から一泊で行き帰りが出来る「一夜泊の地」を旗本の知行地とした。

所沢市域の村々にも、梶氏（所沢村）、宇佐美氏（岩崎村）、武蔵氏（三ヶ島村など）らの旗本が、領主として陣屋を構えるようになった。彼らは、家族や家来を領地に住まわせる一方で、自分は勤務の度に江戸を往復するという生活を送った。当時江戸は整備されはじめたばかりで、町としての機能が整っていなかったからだ。やがて江戸の町の建設が進むと、旗本の多くは江戸屋敷を建てて移り、領地の村々には陣屋の存在をうかがわせる地名や墓所などが残された。

東の上遺跡調査報告書より

長久寺：久米村

天正19年（1591）中根伝七郎正重が久米のうち200石を知行として与えられ幕末まで続いた。正重は伏見城番となったが、伏見でなくなって長久寺に葬られた。

その子、伝七郎正成は出世して5000石となった。深川に葬られたが長久寺にも墓を建てた、しかし以後中根氏は長久寺には葬られていない。

9. 持明院

・淵上山（えんじょうざん）持明院 真言宗豊山派

・真言塔（門前）：造立年不明 4面に梵字が彫られている。正面は **唵阿吽** だが、摩耗して見えない。これは、大日如来の真言 ア・ピ・ラ・ウン・ケン（阿・毘・羅・吽・欠）らしい。

真言とは、真実の言葉という意。転じて仏の言葉をいう。真言は音が重要であることから、翻訳せず音を用いる。

曼荼羅淵の河童

ところざわ歴史物語より

北秋津の持明院のすぐ南の柳瀬川は深い淵になっていて曼荼羅淵と呼ばれていました。ここには一匹の河童が住んでおり、笹井（狭山市）や伊草（川島町）の兄弟分にみやげとして、人間の肝を届けることになっていました。その話が次第に広がったので誰もこの淵には近づかなくなり、困った河童は馬の肝を取ろうとしてとうとう捕まってしまうました。河童は持明院に連れて行かれ、お坊さんに懇々と説教されました。そして二度と人に迷惑をかけないよいう証文を書いてやっと許してもらいました。

この詫び証文は長く持明院に伝えられていましたが、惜しいことに火事で焼けてしまったそうです。

10. 庚松堂

庚松堂：持明院の墓地の中に庚松堂があります、本尊は薬師如来。

このお堂の中で、昭和初期まで年1回庚申講の御日待が行われていました。庚申講が行われていたのはそんなに昔の話ではないのですね。

六地藏：左から伏息地藏、伏勝地藏、諸龍地藏、護讚地藏、無二地藏、禪林地蔵でそれぞれ

天上、人間、修羅、畜生、餓鬼、地獄の六道で救ってくれるお地藏様です。

そのお姿（持ち物）はそれぞれ違っており

宝珠、柄香炉、合掌、数珠、幢幡、錫杖・香炉 といえます。

同じ真言宗豊山派でも名称、持ち物等は違う場合がありますが上記のパターンが所沢では多いようです。

11. 百番礼拝塔

百観音（西国三十三箇所、坂東三十三箇所、秩父三十四箇所）と三山（月山、湯殿山、羽黒山）を廻ったことを記念して立てている。中村家4代の夫婦の供養も兼ねている。今では車で回るのだろうが、最新の物は平成19年。まだ続いているのは驚きだ。

12. 庚申塔他

山崎の庚申塔：宝暦5年（1755） 右ちゝぶ 左山口道 武芻入間郡北秋津邑 庚申待講中

（芻は音はりで、刀を三つ書きます。

刀⇒り（りっとう）、刀三つはりりり⇒よく見ると州です へ〜本当？）

延命地藏：明治14年

13. 北秋津富士塚及び富士講記念碑

明治期に富士講の流派のひとつ官位講の先達を勤めた**新井家**の邸内に、小規模な富士塚と富士講記念碑があります。碑は、明治18年（1885）に富士登山64度の大願成就を記念した石碑など全部で14基あり、所沢における富士講の盛行を示す資料として貴重です。

富士山は、古来から神聖な山として信仰の対象になっており、江戸時代には富士山の登拝が、庶民の間でも広く行われるようになりました。しかし、多くの時間と経費を要するため、毎年続けて行けるものではありません。そこで村内では、「講」と呼ばれる同じ目的をもつ者の集団をつくり、代表者による登拝や富士塚の築造など、富士山に行くことができない人にも擬似的に富士山の登拝を体験できるようにしました。

所沢市ホームページより

13. 日月神社

神社そのものはよく分かりませんが、「蜻蛉のやどり木」の民話で有名。昔は民話になった大ケヤキが武蔵夜話やわに載っている。

蜻蛉のやどり木

ところざわ歴史物語より

昔、無理なことばかり言ってまわりを困らせる殿様がいました。

ある秋のさわやかな一日、家来をつれ散歩に出た殿様は、日月神社までやってきました。そこにはたくさんのおとんぼが飛びかかっており、その光景を喜んだ殿様は家来に自分の年の数だけおとんぼを捕まえるようにと命じました。道具もなく、苦労しながらも家来は何とかおとんぼを捕まえました。あいに殿様の年の数にはひとつ足りません。怒った殿様は捕まえたおとんぼを握りつぶすと、ご神木に向かって投げつけ、叫びました。

「お前が本当に神なら、その証拠を見せろ。もしそれができたなら、もう二度と無理を言わないと誓ってやろう」

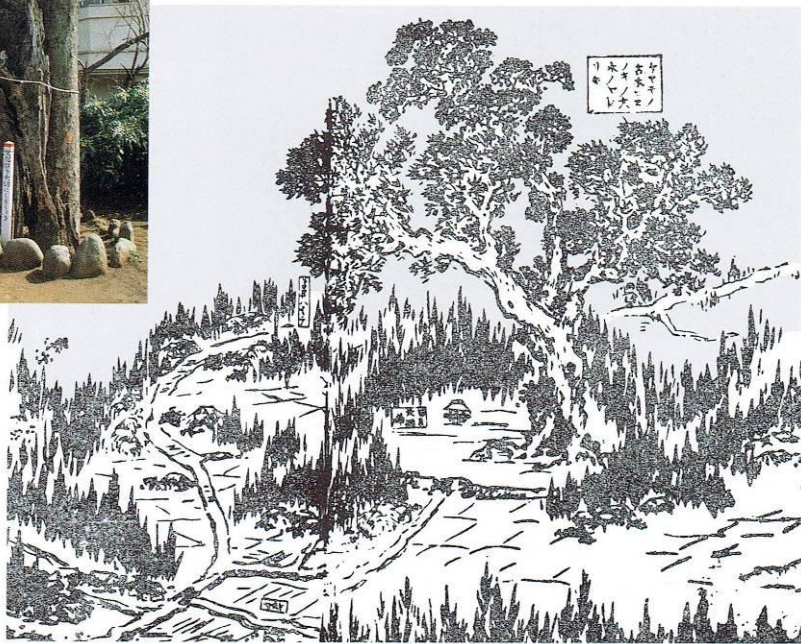
するとご神木のけやきの股から、榎の木がすくすくとはえてきました。そしてその時から殿様は口を聞けなくなってしまうということです。



エノキ：こちらも今は枯れている

ケヤキ

武蔵夜話に描かれた日月神社のケヤキ



武蔵夜話：文化12年（1815）斎藤鶴磯により刊行。
斎藤鶴磯の書いた坂稻荷の幟は市指定文化財になっている

15. 庚申塔他

北秋津交差点近くにある

- ①庚申塔：正徳5年(1715)
- ②馬頭観音：安永7年(1778)
- ③地藏菩薩：年不明

— 以上 —